



### アンドーバータウンミーティング： 直接民主制の現場からの洞察①

(一財)自治体国際化協会ニューヨーク事務所 所長補佐 光永 靖彦 (大分県大分市派遣)

#### はじめに

集団の構成員が、その集団の意思決定をいかに上手く行うかという民主主義の意思決定の仕組みとして、日本をはじめその他多くの国や地域で採用されているのが間接民主制です。

一方で、アメリカの北東部に位置するニューイングランド地方（メイン州、ニューハンプシャー州、バーモント州、マサチューセッツ州、ロードアイランド州、コネティカット州）では、直接民主制によるタウンミーティングが17世紀前半から開催されており、現在も多くのタウンでこの政治形態が維持されています。

タウンミーティングとは、資格を持った全ての有権者が参加し、課税や規則、予算などの重要事項を直接議論し投票で決定する制度です。この制度では1年間の任期で選出される議長役のモデレーターが進行を担当し、各議題に住民の意見が反映される民主的なプロセスが実現されています。

今回、マサチューセッツ州アンドーバーで年に1回開催されるタウンミーティングに参加する機会を得たため、その内容を2回に分けてレポートします。



お揃いの赤いTシャツを着て有権者への主張が書かれたチラシを配る人たち



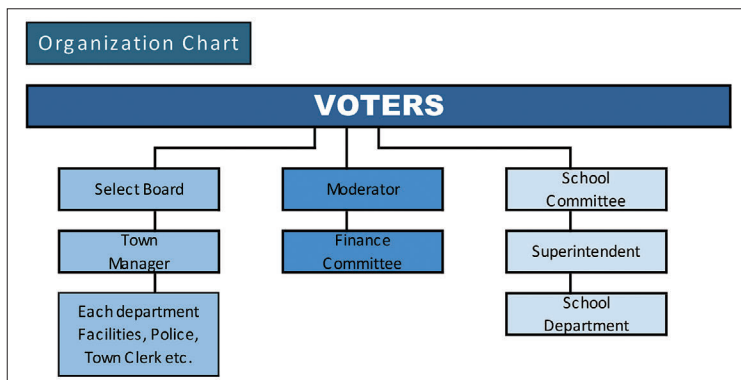
有権者へ配られたチラシ：教育予算の削減提案がされた4号議案への反対を呼びかける内容

#### タウンミーティングの概要

2024年のタウンミーティングは、4月29日、30日と2日間にわたって地元アンドーバー高校で開催され、36議案中、3つが否決され、その他の議案は可決または修正のうえで可決されました。

私たちが参加した初日は約1,000人、2日目は約500人の有権者が参加しました。初日は2025年度の予算が審議されるため、住民からの注目度が高く、学校予算の増額を求めるグループ約30人が会場入口で自分たちの主張を記載したチラシを配布し、最後のロビー活動を行っていました。

会場内は整然としており、壇上中央には、タウンミー



組織図：町から提供された資料の一部を加工して筆者が作成

ティングの議長を務めるモデレーター、行政運営の長であるタウンマネージャー以下の行政の幹部スタッフ、町の政策決定機関であるとともにタウンマネージャーなどを任命する権限を持つ公選職のセレクトボードなど5人が並びます。それぞれの役割は以下のとおりです。

議長役を務めるモデレーターは、タウンミーティングにおいて会議の進行を担当します。日本の議会の議長と同じく、議事の進行を行うと同時に、多くの有権者が参加する中で健全な議論をするために、一般的な日本の議会の議長よりも積極的に議論の「交通整理」を行っている姿勢が印象に残りました。

セレクトボードのメンバーは、タウンマネージャーと密に協力して政策実施と行政業務を監督する役割を担っており、3年の任期で選出されます。すべてのメンバーが同時に再選されることはないため、豊かな経験からの監督を維持しつつ、定期的な選挙を通じて新しい視点を取り入れることが可能となります。

このほか、タウンマネージャーと同様の方法と任期で選出されるファイナンシャルボードは、町の年間予算を作成し、タウンミーティングで承認されるための提案を行っています。同時に各部門の予算要求を精査し、全体の財務計画を立てる役割も担っています。

最後に、スクールコミティーは、教育方針、カリキュラム、学区の目標および基準の設定や、学校システムの年間予算を策定し、監督しています。

このようなメンバーのもと、タウンミーティングの議事進行が進められました。

## タウンミーティングのスタート

会議開始前には、教会から招かれた牧師が「会議が終了するまで神が寄り添い、ここにいる全員が協力を受け入れ、合意に導かれるように」と祈りを捧げました。モデレーターの開会の言葉は特に印象的で、「私の小槌が机を叩く瞬間から、あなたたちは住民から市民議員に変わります。タウンミーティングと自治の伝統は、連邦政府よりも古く、マサチューセッツ州と町民憲章がこの組織の権力と権威を定めます」と述べました。この言葉はタウンミーティングが持つ団体自治と住民自治の役割を端的に示すと同時に、この会議が持つ意義を住民に再認識させるための重要なものであると感じました。

今回は、今回のタウンミーティングを象徴した2つの議案を紹介したいと思います。



会場内の壇上の様子